

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】（小学校用）

都道府県名	京 都 府
-------	-------

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	聖母学院小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	4	4	4	4	4	4		24	50
児童数	172	164	161	162	166	160		985	

研究の概要

1. 研究主題

自ら進んで感じ・考え・確かめ、学び方を学ぶ子どもの育成

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

- ・ 1～6年・算数
個々の習熟度に差があると全員に確実に理解させることは不可能に近い。「できた」「できない」が明確であれば、児童自身もできた喜びとできなかった悔しさをはっきりと味わうことになるが、できなかった悔しさを味わい続けると次第に意欲はなくなってしまふ。また、習熟の遅い児童に焦点を合わせた授業では、習熟の速い児童は授業に退屈してしまうだけでなく、その力を十分に伸ばすことができない。そこで、個々の児童の実態に応じた指導を行い、個々の学力のより一層の伸長を図る。
- ・ 1～6年・国語
国語の力は理解力、思考力、表現力などの重要な能力の基礎であるため、その徹底を図る。
- ・ 1～6年・総合的な学習の時間（情報教育）
「コンピュータは、知的な創造、新しい生き方を目指すための身体の一部」というように捉え、そのためにコンピュータを自分の体の一部として自然に使いこなすセンスを早くから身に付けることで、情報活用能力の育成を図る。
- ・ 1～6年・総合的な学習の時間（国際理解教育）
国際交流が盛んとなり、様々な国の人々をどんな小さな町でも見かけるようになった今、国際的視野を持った人材の育成が望まれる。ものごとをしっかりと認識できるであろう小学校の時期から異文化に触れ、理解することで、自らの文化を理解する力を培う。

(2) 年次ごとの計画

平成15年度	テーマ 教科学習で身に付ける力（教科の基礎的・基本的な内容）の系統表を作成し、聖母学院小学校の指導書作りに向けて評価規準表を作成する。
	研究の見通し 学習のねらいを明確にすることで、より質の高い学習と評価活動の展開が可能となる。
	研究の内容・方法
	1 教科学習における授業改善 指導系統表を基盤として子どもが楽しく分かる学習を通して確かな力を身に付けることのできる授業改善に取り組む。そのためには、個を見つめ個に応じた指導方法の工夫、学習指導案における単元展開の構想、学習指導過程の改善、そして評価活動に取り組まなければならない。また、高学年の教科担任制、習熟度別コース

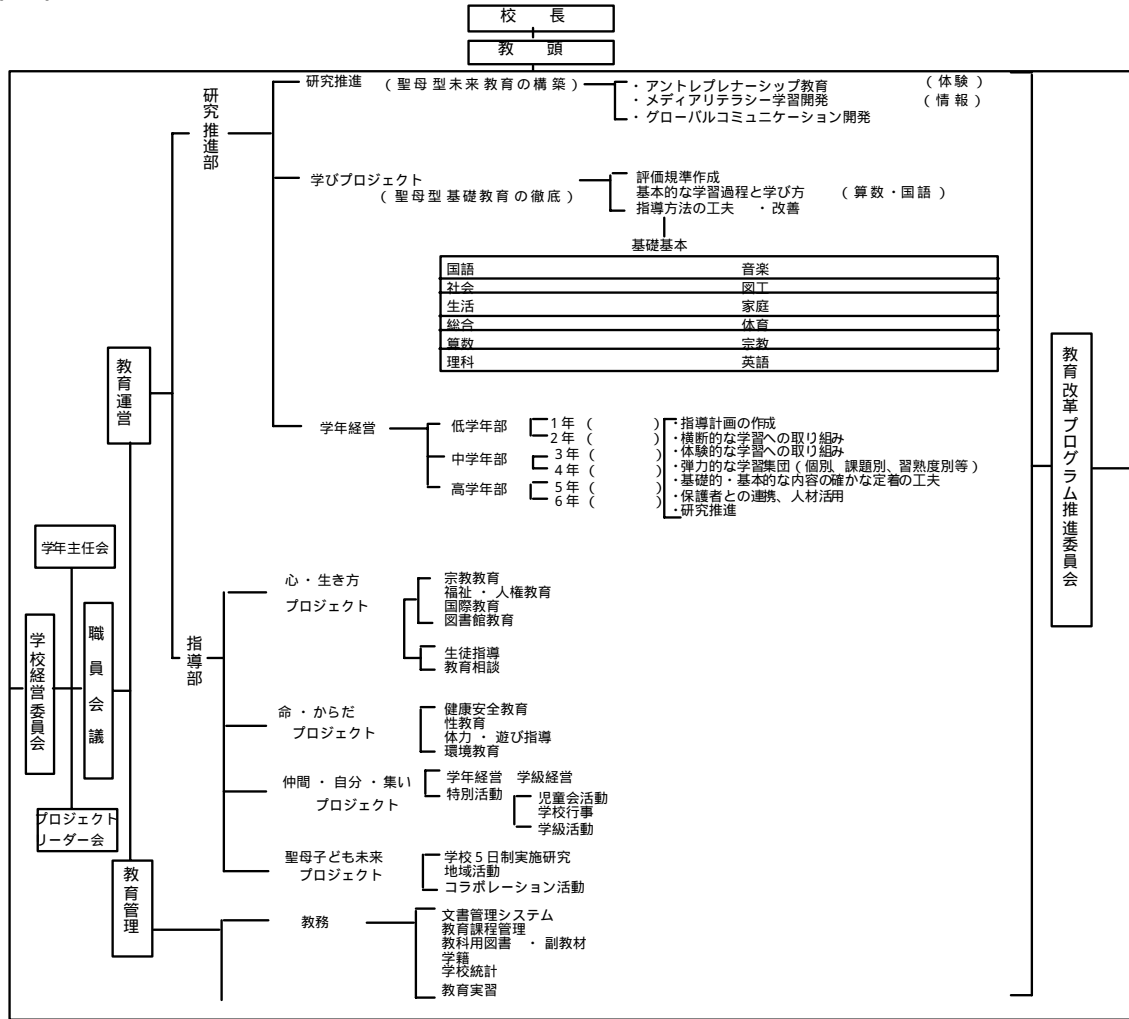
	<p>分け、チームティーチングの一層幅広く有効な活用、学習進度の遅い児童に対する補充指導の推進など、指導方法の弾力化を積極的に図る。</p> <p>(1) 算数科における指導体制の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少人数授業の推進 ・習熟度別授業の推進 <p>(2) 総合的な学習の時間(国際理解教育)における指導体制の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チームティーチングの充実 <p>2 身に付ける力の指導系統表の作成(聖母学院小学校の指導書作りに向けての評価規準表の作成)</p> <p>教科学習の各学年で身に付ける力(教科の基礎的・基本的な内容)を指導系統表にまとめ、系統的な学習と観点を明確にした評価活動を行うための基盤とする。</p> <p>3 情報教育におけるテキストの作成</p> <p>必要な情報を活用するリテラシーを定着させる。LANやインターネットといったネットワーク環境を活用しながら、主体的な学びができる基盤を整備し、情報通信社会に生きる子どもたちに、必要な時に情報に関わる能力を新しい時代の「読・書・算」として身に付ける教育を推進する。</p> <p>4 体験学習の推進</p> <p>体験学習で身に付ける力の系統表をもとに、子どもの思いや願いを重視した体験学習の実践に取り組む。さらに、体験学習を実践するに当たって、子どもの生き方に結びつくガイダンスの作成に取り組む。</p> <p>5 カルテの活用と子ども世界理解</p> <p>現在、児童理解を図ることを目的としてカルテを作成中である。そこで、さらにカルテの質的な深まりを求めて、記録の範囲をすべての領域や生活場面にまで広げ、つばやきや行動を継続的に記録する。</p> <p>6 子どもを取り巻く時間・空間・人間的成長の支援</p> <p>子どもたちを取り巻く学習環境はどうあるべきかを考え、時間・空間・人間の視点からの環境整備に取り組む。特に、弾力的でゆとりある時間の運用を図るための日課表の見直しや学習を支える人材バンクなどの学習資源の整備を行う。</p> <p>7 家庭との融合</p> <p>家庭との連携を密にし、家庭・学校が一体となった教育活動を展開していくために、聖母子ども未来プロジェクト、学校だよりや学年・学級だより等を通して子どもの教育や望ましい家庭の在り方についての提起を行う。</p> <p>8 教職教養研修</p> <p>現在の教育課題を解決していくために必要な指導方法等についての理論や実技を取り入れた研修を実施し、教師としての資質の向上を図る。 (先進校視察、校内授業研究会、夏期研修 等)</p>
--	---

平成16年度	<p>テーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・深く考え、主体的に判断、行動し、よりよく問題を解決する能力や、豊かな人間性など、児童一人ひとりに「確かな力」の育成を図る。 ・学び合う学習共同体づくりとより高度な知的発展の追求のためのIT推進に務める。 <p>研究の見通し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自ら課題に取り組み、考える場を大切にされた論理的な学習の流れとその学び方の定着を図る。 ・個に応じた指導の充実を図るための指導方法や指導体制を工夫改善する。 <p>以上を研究の中心として取り組むことで、子どもたちが学習課題を自分のものとしてつかみ、自ら進んで課題解決に取り組むようになり、筋道を立てて自ら学び自ら考える力が育成できる。</p>
--------	--

研究の内容・方法

- 1 一人ひとりの実態把握と分析
- 2 系統性の明確な指導計画
- 3 児童の実態に応じた多様な学習の組織
- 4 基礎的・基本的な事項の定着
 - (1) 指導方法の工夫改善
国語・算数と国際理解教育を重点教科とし、授業研究会を通して单元ごとに指導目標を確かめながら、基礎・基本の定着を図るための指導方法の研究
 - (2) 聞く力・話す力の育成
「学習のやくそく」「話し合いのやくそく」を作成し、授業の中で段階的に話す力・聞く力を育成
 - (3) 「まとめ」の段階の重視
演繹的な活動を取り入れ学習内容の定着
 - (4) 家庭学習の習慣化
- 5 自ら学ぶ意欲の育成
 - (1) 論理的思考力・問題解決的な学習における基礎・基本の徹底
 - ・国語科の学習を通して、言語能力の向上を図り、論理的思考力・問題解決力及び学び方の基礎を育てる。
 - ・算数科の学び方を論理的思考力・問題解決的な学び方のモデルとして、その定着を図る。
 - ・「学習のやくそく」の徹底と「学び方指導」の推進を図る。
 - (2) 興味・関心等に応じた学習の推進
 - (3) 目的意識の明確化
 - (4) 体験的な活動の推進
- 6 子ども同士の関わりを深める工夫
- 7 「確かな力」を育てる授業づくりを支援するコンテンツの開発と IT 活用
 - (1) 基礎基本の確実な習得
 - (2) 楽しい学びの実現と進んで学ぼうとする意欲の向上
 - (3) 児童一人ひとりの力の伸長
 - ア 指導活動を支援するコンテンツ、データベースの開発と活用
 - ・年間指導計画、単元指導計画、単位時間展開案、及び指導に用いる資料等のデータベース化
 - ・児童理解データベースの開発と活用
 - ・聖母子ども未来プロジェクト人材バンクデータベースの開発と活用
 - イ 学習活動を支援するコンテンツ、データベースの開発と活用
 - ・学習コンテンツの開発と改善・充実と活用
 - ・学習成果データベースの開発と改善・充実と活用
 - ウ ア、イを踏まえたWEBページの作成・改善・開発とこれを活用したWEBラーニングの在り方の工夫
- 8 評価方法の工夫改善
- 9 基礎的な授業技術の研修
 - (1) 授業研究会やチェックリストを活用した学年部での研修を通して、基礎的な授業技術の向上を図る。
- 10 学習環境の整備
- 11 自分を見つめ、自分で生活を整える活動の推進
 - (1) 週3回の「全校読書(朝の読書)」の実施
 - (2) 「全校縦割り清掃」の実施

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究の成果及び今後の課題

1. 研究の成果

学びの基礎基本を大切にしようとする意識が教師に広がった。評価規準表を作成することで、各教科、各時間で子どもたちに「今、どのような力を身に付けさせなくてはならないか」ということを常に考えるようになった。

また、少人数授業により、児童一人ひとりの発言の機会や、机間指導での助言も増え、よりきめ細かく指導できるようになった。児童一人ひとりの課題を明らかにし、個別指導の充実を図ることができた。副教材も本校独自のものを用い、授業展開について学年間で進度についての打ち合わせを十分行うようになった。

2. 今後の課題

チームティーチング、特に少人数分割授業の一層の研究、工夫改善
 基礎的・基本的事項の精選と明確化による定着のための授業の工夫改善
 自学自習の力をつけるための一層の工夫充実
 進度・評価についての綿密なミーティング
 集団に応じた指導方法の工夫と児童の発達段階に合った指導形態の研究
 分割方法と各集団の適正人数の検証
 フロントィアスクールとしての実践の公開、及び成果の普及のための公開授業や実践記録の刊行

学力等把握のための学校としての取組

学力診断テストの実施

- ・ 2003年2月実施（国語・算数）
 - ・ 2004年4月実施予定
- 到達度チェックテスト（国語・算数）

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

小さきあゆみの発行（学校研究誌）

学校教育活動全体を通して、学校教育目標、目指す児童像について、何ができていて、何を積み残しているかを明らかにし、教員全員がよりよい実践を積み上げていくために発行する。

学習のめあての発行

- ・ 学習者が、授業で、単元ごとに、何をめあてに学習をしているのかを知る。学習に見通しを持ち、また学習を振り返ることを通して、自ら学んでいく力をつける。
- ・ 保護者が、各教科、単元ごとの子どもの学習のめあてを知り、適切な援助や励ましをあたえる。子どもの自己評価を助けるとともに、懇談等で子どもの評価を具体的に知ることができる。
- ・ 授業者が、各単元の授業を進めていく上で、学習のめあてをはっきり意識する。また、各めあてに添って子どもの学習状況を評価し、保護者にも伝える。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

- | | | | | |
|----------------------|---|---|---|--|
| 【新規校・継続校】 | <input checked="" type="checkbox"/> 15年度からの新規校 | <input type="checkbox"/> 14年度からの継続校 | | |
| 【学校規模】 | <input type="checkbox"/> 6学級以下
<input type="checkbox"/> 13～18学級
<input type="checkbox"/> 25学級以上 | <input checked="" type="checkbox"/> 7～12学級
<input type="checkbox"/> 19～24学級 | | |
| 【指導体制】 | <input checked="" type="checkbox"/> 少人数指導
<input type="checkbox"/> 一部教科担任制 | <input checked="" type="checkbox"/> T・Tによる指導
<input type="checkbox"/> その他 | | |
| 【研究教科】 | <input checked="" type="checkbox"/> 国語
<input type="checkbox"/> 生活
<input type="checkbox"/> 体育 | <input type="checkbox"/> 社会
<input type="checkbox"/> 音楽
<input checked="" type="checkbox"/> その他 | <input checked="" type="checkbox"/> 算数
<input type="checkbox"/> 図画工作 | <input type="checkbox"/> 理科
<input type="checkbox"/> 家庭 |
| 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 | <input type="checkbox"/> 有 | <input checked="" type="checkbox"/> 無 | | |